本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

第 2 章　快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

第 3 章　リカバリとインストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明しています。

第 4 章　困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

第 5 章　技術情報

お使いになるうえでの留意事項を説明しています。

目次

本書をお読みになる前に 5
お問い合わせ一覧 5
本書の表記 6

第 1 章　ご購入後の操作

1 セットアップ 10
Windows2000 セットアップ 10
ネットワークの設定 12
2 ユーザー登録と起動ディスクのコピー 14
ユーザー登録を忘れずに 14
リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー 14
3 プレインストール仕様 16
ソフトウェア一覧 16
デバイス一覧 18
ドライブ構成 20
アプリケーションのアンインストール 21

第 2 章　快適にお使いいただくために

1 コンピュータウイルス対策 24
VirusScan 24
コンピュータウイルスを発見した場合 25
コンピュータウイルスの被害届け 25
2 画面を設定する 27
解像度と色数 27
マルチモニタ機能を使う（〔CX〕除く） 28
3 Power MANagement for Windows 31
サポート機種 31
PMAN の機能 31

第 3 章　リカバリとインストール

1 リカバリ 36
リカバリの概要 36
ハードディスクの領域を設定する 37
リカバリ方法 38
2 ソフトウェアのインストール 40
ドライバのインストール 40
プレインストールソフトのインストール 43
添付ソフトのインストール 44

第 4 章　困ったときに

1 こんなときには 48
トラブル発生時の参照先 48
トラブルシューティング 48
Windows2000 に関する Q&A 51
2 それでも解決できないときは 54
お問い合わせ前の確認シート 55

第 5 章　技術情報

1 その他の留意事項 58

索引 69

本書をお読みになる前に

お問い合わせ一覧

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2000 年 5 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください。

- **はじめよう！インターネット（@nifty）**
  - 入会／ @nifty サービス全般
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-816-042
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
    E-mail：feedback@nifty.com
  - テクニカルサポート
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-818-275
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5753-2373）
    E-mail：feedback@nifty.com
  - パスワード再発行／各種手続き／解約
    ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-842-210
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
    E-mail：feedback@nifty.com
- NIFTY MANAGER for Windows Version 5.12
  ニフティマネジャーでの接続や操作方法について
  ニフティ株式会社 ニフティマネジャー
  サポートセンター
  9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
  電話：0120-326-526
  （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
  E-mail：feedback@nifty.com
- NIFTY SERVE（**パソコン通信サービス**）**の利用に関して**
  ニフティ株式会社 パソコン通信サポート
  センター
  9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
  電話：0120-22-1200
  （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
  E-mail：feedback@nifty.com
- VirusScan Ver.4.5.0 for Windows2000
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポートセンター
  9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：03-3379-7770
- Adobe Acrobat Reader4.05
  ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。
- **アプリケーション（カスタムメイドオプション）**
  各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- **その他　FM シリーズの技術的なご質問・ご相談**
  FM インフォメーションサービス
  （添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

本書の表記

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を 1 回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:\setup.exe
```

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「ー」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」ー「フロッピーディスク A」：使用しない

CD-ROM ドライブ

CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売のオプションを用意してください。使用できるオプションについては、『システム構成図』をご覧ください。

オプションの使用方法についてはオプションのマニュアルをご覧ください。

お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2000 年 5 月現在のものです。変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』参照）。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows2000 と表記しています。

Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION を、Windows98 と表記しています。

Microsoft® Windows® 95 operating system を、Windows95 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 を、WindowsNT 4.0 または WindowsNT と表記しています。

Microsoft® MS-DOS® operating system Version 6.2/V を、MS-DOS と表記しています。

NIFTY MANAGER for Windows Ver 5.12 を、NIFTY MANAGER と表記しています。

VirusScan Ver.4.5.0 for Windows2000 を、VirusScan と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader 4.05 を、Acrobat Reader と表記しています。

Power MANagement for Windows を、PMAN と表記しています。

ドライバーズ CD ／マニュアル CD をドライバーズ CD と表記しています。

機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中の表記	
FMV-6866TX5	〔TX〕	本パソコン パソコン本体
FMV-6800SL5/6733SL5/6667SL5/6600SL5c/6566SL5c	〔SL〕	
FMV-6667CL5/6600CL5c/6566CL5c	〔CL〕	
FMV-6667CX5/6566CX5c	〔CX〕	
FMV-5533ML5	〔ML〕	

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT **は、米国** Microsoft Corporation **の米国およびその他の国における登録商標です。**
VirusScan **は、米国** Network Associates **社及び関連会社の商標又は登録商標です。**
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© **富士通株式会社** 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation **の許諾を得ています。**

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1 **セットアップ** 10
2 **ユーザー登録と起動ディスクのコピー** 14
3 **プレインストール仕様** 16

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows2000 の初期設定（Windows2000 セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows2000 セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows2000 セットアップを始めます。

留意事項

- Windows2000 セットアップを行う前に、オプションを取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。
  Windows2000 セットアップを行う前にオプションを取り付けると、Windows2000 セットアップが正常に行われない場合があります。
- セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- Windows2000 セットアップ時に音が鳴るので、スピーカーを接続している場合はボリュームを調整してください。
- Windows2000 セットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows2000 セットアップが正常に行われない場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されてから、マウスで操作してください。
- 電源を入れたあと、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX〕除く）。

セットアップ

1 本パソコンの電源を入れます。

しばらくすると、「Windows 2000 セットアップウィザードの開始」が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。

「ライセンス契約」が表示されます。
「使用許諾契約書」は、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows2000 を使用するうえでの契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- **「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックしたあと、メッセージに従って操作してください。**

「ソフトウェアの個人用設定」が表示されます。

4 **「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。**

「コンピュータ名と Administrator のパスワード」が表示されます。

5 **「コンピュータ名」、「Administrator のパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「次へ」をクリックします。**

「ネットワークの設定」が表示されます。

ネットワークの設定については、セットアップ完了後にネットワーク管理者に確認し、ご使用の環境に合わせて設定してください（→ P.12）。

6 **「標準設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

POINT

- **「標準設定」では、次のネットワークコンポーネントがインストールされます。**
  - Microsoft **ネットワーク用クライアント**
  - Microsoft **ネットワーク用ファイルとプリンタ共有**
  - **インターネットプロトコル**（TCP/IP）

「ワークグループまたはドメイン名」が表示されます。

7 **「このコンピュータはネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

「Windows 2000 セットアップウィザードの完了」が表示されます。

8 **「完了」をクリックします。**

9 **「再起動する」をクリックするか、または 15 秒待つと本パソコンが再起動します。**

重 要

- **「ネットワーク識別ウィザード」ダイアログボックスが表示されたとき、「戻る」をクリックしないでください。**
  再設定が必要な場合は、設定終了後に該当個所を修正してください。

「ネットワーク識別ウィザードの開始」が表示されます。

10 **「次へ」をクリックします。**

「このコンピュータのユーザー」が表示されます。

11 **「ユーザーはこのコンピュータを ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

POINT

- **「ユーザーはこのコンピュータを ...」を選択した場合は、**Windows2000 **起動時に「**Windows **へログオン」ダイアログボックスが表示され、「常に次のユーザーがこのコンピュータに ...」を選択した場合は、「**Windows **へログオン」ダイアログボックスが表示されずに自動的にログオンされます。**

「ネットワーク識別ウィザードの終了」が表示されます。

12 「完了」をクリックします。

「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示されます。

13 手順 5 で入力したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- **本パソコンでは、「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスにある「Windows について」をクリックすると、「Windows CD が見つかりません」と表示されます。この場合は「キャンセル」をクリックしたあと、「ディスカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスで「c:\support\discover」と入力し、「OK」をクリックしてください。**

これで、Windows2000 セットアップが完了しました。
カスタムメイドオプションでアプリケーションを選択している場合は、添付の『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。

ネットワークの設定

Windows2000 セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、以降の手順に従って設定を行ってください。また、セキュリティ対応の LAN カードをお使いの場合は、ネットワークの設定を行ったあと、IP セキュリティポリシーを割り当てる必要があります。設定方法は、Windows2000 のヘルプをご覧ください。

ネットワークコンポーネントのインストール

POINT

- **使用するネットワークコンポーネントについては、ネットワーク管理者に確認してください。**

1 「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「インストール」をクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類の選択」ダイアログボックスが表示されます。

4 設定するネットワークコンポーネントを選択し、「追加」をクリックします。

以降、メッセージに従って設定を行います。

ネットワーク ID の設定

POINT

- **設定するネットワーク ID（コンピュータ名やドメイン名など）については、ネットワーク管理者に確認してください。**

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ネットワーク ID」タブをクリックします。

3 「ネットワーク ID」または「プロパティ」をクリックし、コンピュータ名やユーザー名の設定を行います。

2 ユーザー登録と起動ディスクのコピー

セットアップが終了したら、ユーザー登録と起動ディスクのコピーを行ってください。

ユーザー登録を忘れずに

本パソコンが使用できる状態になったら、添付のユーザー登録カードに必要事項を記入し、投函してください。
ユーザー登録カードは、弊社やソフトウェア会社が自社製品のユーザーを把握し、さまざまな情報を提供する際に利用するものです。
ソフトウェアのバージョンアップ（ソフトウェアの機能を強化し、版数を上げること）時や電話相談などには、ユーザー登録をしていることが条件ですので、忘れずに投函してください。

リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー

本パソコンに添付されている「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」には、リカバリ（→ P.36）に必要なファイルが含まれています。このディスクは、リカバリ時だけでなく、本パソコンが起動しなくなったときの起動ディスクとしても、使用できます。
次のものを用意してください。

- リカバリ CD-ROM 起動ディスク
- フロッピーディスクのラベル 1 枚（購入してください）
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク 1 枚（購入してください）

コピー方法

まず、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を次の方法でコピーし、原本を保管用として普段はコピー（複製）をお使いください。

1. **Windows2000 を起動します。**
2. **添付されている「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。**
3. **「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。**
   「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
4. **「3.5 インチ FD（A:）」アイコンを右クリックし、「ディスクのコピー」をクリックします。**
   「ディスクのコピー」ダイアログボックスが表示されます。

5 コピー元とコピー先に「3.5 インチ FD（A:)」が選択されていることを確認し、「開始」をクリックします。
メッセージに従ってコピーを作成してください。

6 コピーが終了したら「閉じる」をクリックします。

■ **機種用設定**
コピーした「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を次の方法で各機種用に設定してください。

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーを書き込み可能な状態にしてセットし、本パソコンを再起動します。
「続けるにはどれかキーを押してください ...」と表示されます。

2 何かキーを押します。
ファイルがコピーされたあと、本パソコンが再起動します。
再起動すると、「Windows 2000 リカバリメニュー」が表示されます。

3 【3】キーを押します。
MS-DOS プロンプトが表示されます。

4 フロッピーディスクを取り出し、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」と記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。
ラベルには「作業用」と記入し、お使いのパソコンの機種名を記入しておくことをお勧めします。

CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合

CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合、リカバリ (→ P.36) には「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の設定が必要になります。あらかじめ設定しておいてください。

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に CD-ROM ドライブのファイルをコピーします。
コピーするファイルについては、お使いになる CD-ROM ドライブに添付されているマニュアルなどを参照してください。

2 Config.sys を修正します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の「A:\Config.sys」の該当箇所（XXXXXXXX）を使用するドライバ名に変更してください。

```
DEVICE=XXXXXXXX.SYS  /D:OEMCD001
```

作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を書き込み禁止の状態にしてお使いください。

3 プレインストール仕様

Windows2000 セットアップが終了した時点での本パソコンの環境は、次のとおりです。

POINT

- 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows 2000 Professional	「C:\Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft® Windows® 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.0	WWW ブラウザです。
Microsoft IME 2000	日本語入力変換ユーティリティです。
DirectX7.0a	マルチメディアの機能を拡張します。DirectX7.0a に対応したソフトウェアの高速表示・高品位音声再生を実現します。
Windows 環境調査ツール（FM Advisor）	本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。
Acrobat Reader	PDF（Portable Document Format）書類を表示、閲覧、印刷できます。
富士通 3 モードフロッピーディスクドライバ	1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB のフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。
光磁気ディスク・ユーティリティ（〔TX〕〔SL〕〔ML〕）	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット／イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。
FMV 診断	ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

カスタムメイドオプションのアプリケーションについては添付の『アプリケーション補足説明書』や各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください（→ P.21）。

添付ソフト（未インストール）

POINT

- **一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。**

インストール方法は、「添付ソフトのインストール」（→ P.44）をご覧ください。

名称	備考
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（→ P.24）。
Power MANagement for Windows	本パソコンの電源を制御するソフトウェアです（→ P.31）。
FMKEEPER	パソコンのメモリ、ハードディスクや増設オプションなどの資産の情報を表示したり、パソコンを監視し発生した異常の詳細情報を参照できます。 なお、〔ML〕では使用できません。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
光磁気ディスク・ユーティリティ（〔TX〕〔SL〕〔ML〕除く）	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット／イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。
NIFTY MANAGER	パソコン通信ソフトです。使用方法については、NIFTY MANAGER のヘルプをご覧ください。
Fujitsu Digital LCD Utility（〔CL〕）	デジタルディスプレイを使用するためのユーティリティです。

デバイス一覧

POINT

- **本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。その際、デバイス名称などが本書の記述と異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。**

デバイス	名称	備考
DVD/CD-ROM ドライブ	〔TX〕〔ML〕 NEC CD-ROM DRIVE:282 〔SL〕 TEAC CD-540-E または MATSHITA CD-ROM CR-594 〔CL〕 TEAC CD-224E-B 〔CX〕 MATSHITA CD-ROM CR-1750 または MATSHITA CD-ROM CR-1760	
	〔TX〕〔SL〕〔ML〕 MATSHITA CD-RW CW-7585 〔CL〕 MATSHITA UJDA310	CD-R/RW ドライブ （カスタムメイドオプション）
IDE ATA/ATAPI コントローラ	〔TX〕〔SL〕〔CL〕 Intel(r) 82801AA Bus Master IDE Controller セカンダリ IDE チャネル プライマリ IDE チャネル 〔CX〕 Intel(r) 82801AA Bus Master IDE Controller プライマリ IDE チャネル 〔ML〕 ALi M5229 PCI Bus Master IDE Controller セカンダリ IDE チャネル プライマリ IDE チャネル	
PCMCIA アダプタ	〔CX〕 Texas Instruments PCI-1420 CardBus Controller	
SCSI と RAID コントローラ	〔TX〕〔SL〕〔CL〕 Symbios Logic 8100S PCI SCSI Adapter	SCSI カード （カスタムメイドオプション）
USB（Universal Serial Bus）コントローラ	〔TX〕〔SL〕〔CL〕〔CX〕 Intel(r) 82801AA USB Universal Host Controller USB ルートハブ 〔ML〕 ALi PCI to USB Open Host Controller USB ルートハブ	
キーボード	日本語 PS/2 キーボード（106/109 キー Ctrl + 英数）	
コンピュータ	ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) PC	

デバイス	名称	備考
サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ	〔TX〕〔CL〕〔CX〕 Crystal SoundFusion(tm) CS4281 WDM Audio 〔SL〕 Crystal WDM Audio Codec 〔ML〕 Game port for Yamaha DS1 YAMAHA Legacy DS1 WDM Driver YAMAHA Native DS1 WDM Driver	
ディスクドライブ	MPF3102AT ST330630A	上段：10.2GB 下段：30GB（カスタムメイドオプション）
	〔TX〕〔SL〕〔ML〕 FUJITSU MCD3130AP FUJITSU M25-MCB3064AP	光磁気ディスクドライブ （上段：1.3GB、下段：640MB） （カスタムメイドオプション）
ディスプレイアダプタ	〔TX〕 ATI Technologies Inc. RAGE 128 4X AGP 4X 〔FMV-6800SL5〕 ATI Technologies Inc. RAGE 128 Pro 4XL 〔CL〕〔CX〕〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く） Intel(r) 82810E Graphics Controller 〔ML〕 ATI Technologies Inc. 3D RAGE LT PRO AGP 2X	解像度／色数（〔CX 以外〕）： 800 × 600/High Color（16 ビット） 解像度／色数（〔CX〕）： 1024 × 768/High Color（16 ビット） リフレッシュレート： 60 ヘルツ
ネットワークアダプタ	〔TX〕 Intel(R) 82559 Fast Ethernet LOM with Alert on LAN 2* 〔SL〕〔CL〕〔CX〕〔ML〕 Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)	
	Intel(R) PRO/100 S Management Adapter	セキュリティ LAN カード （カスタムメイドオプション）
フロッピーディスクコントローラ	Fujitsu 3-mode floppy controller (Type 00)	
フロッピーディスクドライブ	Fujitsu 3-mode floppy disk drive	1.44MB/1.23MB/1.2MB/720KB/640KB の各容量のフロッピーディスクを読み書きできます。
ポート（COM と LPT）	〔TX〕 プリンタポート（LPT1） 通信ポート（COM1） 通信ポート（COM2） 〔SL〕〔CL〕〔CX〕〔ML〕 プリンタポート（LPT1） 通信ポート（COM1）	
マウスとそのほかのポインティングデバイス	PS/2 互換マウス	

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 4GB	FAT32
D	〔総容量〕－〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM ドライブ	CD-ROM 搭載時
F	光磁気ディスクドライブ	（カスタムメイドオプション： CD-ROM ドライブがない場合は E ドライブ）

POINT

- **各ファイルシステムにアクセスできる OS は、次の表のとおりです。**

	Windows2000	WindowsNT 4.0		Windows98	Windows95 OSR2 以降
		Service Pack4 以降	Service Pack3 以前		
Windows2000 の NTFS	○	○	×	×	×
WindowsNT の NTFS	○	○	○	×	×
FAT32	○	×	×	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- **ドライブの DMA を設定する方法は次のとおりです。**
  1. **「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。**
  2. **「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。**
  3. **「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。**
  4. **「セカンダリ IDE チャネル」または「プライマリ IDE チャネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
  5. **「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャネルのプロパティ」ダイアログボックスの「詳細設定」タブをクリックします。**
  6. **次の表を参照して設定を変更し、「OK」をクリックします。**
     なお、カスタムメイドオプションの光磁気ディスクドライブは、次の表で○になっていても DMA に設定しないでください。

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0	1
〔TX〕	●	○	○	○
〔SL〕	●	○	○	○
〔CL〕	●	－	●	－
〔CX〕	●	×	－	－
〔ML〕	●	●	×	×

●：ご購入時 DMA 設定
○：DMA 設定可
×：DMA 設定不可
－：増設不可

アプリケーションのアンインストール

留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に気を付けてください。

- 起動中のアプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

  DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

  アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

  「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

1 **コンピュータウイルス対策** 24
2 **画面を設定する** 27
3 Power MANagement for Windows 31

1　コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの 1 つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本パソコンにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。
VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→ P.44）。

POINT

- **「VirusScan」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「VirusScan」を使用不可にしてください。**
  - **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。**
  - **「VirusScan」アイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「使用可能」→「システムスキャン」の順にクリックし、チェックを外します。**
- **VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。**
- **本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。**
- **VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。**
  http://www.nai.com/japan/
  スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- **コンピュータウイルスに感染してしまい、本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。**

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、通商産業省の「コンピュータウイルス対策基準」（平成 2 年 4 月 10 日付通商産業省告示第 139 号／平成 9 年 9 月 24 日改訂通商産業省告示第 535 号）の規定に基づき、平成 2 年 4 月にスタートした制度です。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）に届け出ることとされています。届け出の書式は次ページのとおりです。

〒113-6591
東京都文京区本駒込2-28-8
情報処理振興事業協会
セキュリティセンター
ウイルス対策室　宛
TEL　03-5978-7509
FAX　03-5978-7518
E-mail　virus@ipa.go.jp

（届出書）
住所
会社・団体名
部署
氏名
TEL
FAX
E-mail

コンピュータウイルスの被害（感染・発病）について、下記のとおり届け出ます。

記

1. 発見場所（部署名または個人名）
2. ウイルス名称（内容）　（名称がわからない場合は症状を記載）
3. 発見年月日
　　年　　月　　日
4. 感染機種
　機種　　：富士通FMVシリーズ（IBM互換機）
　OS：　□ Windows95　□ Windows98　□ WindowsNT　□ Windows2000
　ネットワーク
　（チェックマークをつけてください。LAN接続以外は、スタンドアロンです）
　　：□スタンドアロン（単体）　□LAN接続
5. 発見方法
　ワクチンなどによる定期検査を行っている　⇒頻度（毎日・毎週　回／　毎）
　発見方法（　）
　発見に利用したソフトウェア
　（□ VirusScan for Windows95/98/NT/2000（日本ネットワークアソシエイツ株式会社））
　（□上記以外　⇒名称：　社名：　）
6. 推定される感染経路
　感染元
　　□他人から譲渡（国内）　□電子メール（国内）
　　□他人から譲渡（国外）　□電子メール（国外）
　　□雑誌などの付録　□不明
　　□パソコン通信（BBS）　□その他（　）
　　□インターネット（ftp site, web site, NetNews）
　媒体
　　□フロッピーディスク　□電子メール添付ファイル
　　□CD-ROM　□その他（　）
　　□ダウンロードファイル
7. 被害状況
　　PC　　台
　　HD　　台
　　FD　　枚
　　その他
8. 回復処置
　回復方法（　）
　回復に利用したソフトウェア
　（□ VirusScan for Windows95/98/NT/2000（日本ネットワークアソシエイツ株式会社））
　（□上記以外　⇒名称：　社名：　）
　投入人日
　（　　人・　日（0.5日単位で記述））

※ この届出はコンピュータウイルス対策基準（平成9年9月24日付通商産業省告示第535号）の規定に基づいています。届け出られた内容は被害の拡大及び再発の防止に活用しますが、記載されているプライバシーに関する情報を公表することはありません。

2 画面を設定する

ここでは、ディスプレイの解像度と色数を変更する方法とマルチモニタ機能について説明します。

解像度と色数

本パソコンでは、Windows2000 の「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。
なお、High Color は 65,536 色、True Color は 16,777,216 色です。

解像度（ピクセル）	色数	〔TX〕	FMV-6800SL5	FMV-6733SL5/6667SL5/6600SL5c/6566SL5c	〔CL〕	〔CX〕	〔ML〕
640 × 480	256 色 High Color（16ビット） True Color（24 ビット）	○	○	○	○	○	○
	True Color（32 ビット）			×	×	×	
800 × 600	256 色 High Color（16ビット） True Color（24 ビット）	○	○	○	○	○	○
	True Color（32 ビット）			×	×	×	
1024 × 768	256 色 High Color（16ビット） True Color（24 ビット）	○	○	○	○	○	○
	True Color（32 ビット）			×	×	×	
1280 × 1024	256 色 High Color（16ビット）	○	○※	○※	○※	×	○
	True Color（24 ビット） True Color（32 ビット）			×	×		
1600 × 1200	256 色 High Color（16ビット） True Color（24 ビット） True Color（32 ビット）	○	×	×	×	×	×

※：デジタルディスプレイ（DVI 出力）では、表示できません。

POINT

- **設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる色数は少なくなります。**
- **解像度／色数を変更する場合は、必ず起動中のアプリケーションや常駐しているソフトウェアをすべて終了させてから行ってください。また、変更後は必ず** Windows2000 **を再起動してください。再起動しない場合、本パソコンの動作が不安定になる場合があります。**
- **色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX〕除く）。**
- **ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。詳細はディスプレイの取扱説明書をご覧ください（〔CX〕除く）。**

マルチモニタ機能を使う（〔CX〕除く）

Windows2000 には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使う方法を説明します。

■ 留意事項

- グラフィックスカードを選ぶときは次の点にご注意ください。
  - 本パソコンには AGP の空きスロットがないため、AGP 規格のグラフィックスカードは使用できません。
  - Windows2000 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能に対応していない場合があります。
  - マルチモニタ機能に対応しているかどうかを製造元のメーカーにお問い合わせください。
- マルチモニタ機能を使用する前に BIOS セットアップで次の項目を設定してください。
  - 〔TX〕…「詳細」－「ディスプレイ設定」－「プライマリディスプレイ」：AGP
  - 〔SL〕〔CL〕…「詳細」－「ディスプレイ設定」－「プライマリディスプレイ」：Onboard
  - 〔ML〕…「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「プライマリディスプレイ」：AGP
- 自己診断（POST）時、セーフモード時、VGA モード時などのマルチモニタ機能が有効ではない状態では、プライマリアダプタに接続したディスプレイに画面が表示されます。
- 〔TX〕〔ML〕では、複数のグラフィックスカードを増設した場合、PCI スロットの番号が小さい順にアダプタが割り当てられます。〔SL〕〔CL〕では、大きい順に割り当てられます。
- マルチモニタ機能を使用する場合、セカンダリディスプレイとしてアナログディスプレイを接続してお使いください。セカンダリディスプレイとしてデジタルディスプレイを接続した場合、デジタルディスプレイに何も表示されない場合があります（〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕）。

■ 用意するもの

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- マルチモニタ機能対応のディスプレイドライバ（Windows2000 にあらかじめ登録されていないグラフィックスカードの場合）
- ディスプレイ

グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

1 グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます（→『ハードウェアガイド』参照）。

2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。

接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 本パソコンの電源を入れます。

5 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

グラフィックスカードが自動的に検出され、ディスプレイドライバがインストールされます。Windows2000 にあらかじめ登録されていないグラフィックスカードの場合は、メッセージに従ってグラフィックスカードに添付されているディスプレイドライバをインストールします。

6 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

7 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

8 「ディスプレイアダプタ」をダブルクリックし、取り付けたグラフィックスカードが表示されていることを確認します。

9 すべてのダイアログボックスを閉じます。

マルチモニタ機能を設定する

続いて、次の操作を行いマルチモニタ機能を有効にしてください。

1. **デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. **「設定」タブをクリックします。**
3. **「2」のディスプレイをクリックします。**
4. **「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。**
5. **接続したディスプレイの解像度と色数を設定します。**
6. **「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。**

3 Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows（PMAN）**は、本パソコンの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の** ON/OFF**（自動シャットダウン）」、「**LAN **経由によるリモート電源** ON/OFF**」、「イベント連携」の機能を使用できます。**

PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→ P.46）。

サポート機種

PMAN のサポート機種および機能は次のとおりです。

サポート機能	機種名	
	〔TX〕	〔SL〕〔CL〕〔CX〕〔ML〕
スケジュール機能	―	○
リモート電源制御機能	○	○
イベント連携機能	○	○

PMAN の機能

本パソコンで使用できる機能は、以下のとおりです。

- **スケジュール機能**
  カレンダスケジュールにより、パソコン電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。本機能は、〔TX〕では使用できません。
- **リモート電源制御機能**
  本パソコンに搭載されている Wakeup on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のパソコンから LAN 経由で本パソコンの電源投入／切断（自動シャットダウン含む）を行うことができます。グループ指定（運用単位）により複数のパソコンを一括して電源投入／切断することも可能です。
  本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows（コンソール）」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows（コンソール）」（別売）の「運用設定」を使用してください。

● **イベント連携機能**

通常起動時、通常終了時（シャットダウン時）のイベントごとにユーザプロセス（プログラム、コマンドなど）を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることが可能です。たとえば、通常停止（電源切断）のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- **本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。**
- **「コントロールパネル」ウィンドウ－「電源の管理」－「詳細タブ」－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。**
- **シャットダウンについて**
  本ソフトウェアでは、パソコンの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- **DHCP について（リモート電源制御機能使用時のみ）**
  本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- **スケジュールの設定について（スケジュール機能使用時のみ）**
  スケジュール機能において電源 ON/OFF 時刻の設定を行う場合、電源 OFF 時刻と電源 ON 時刻との間隔を 1ヶ月以内に設定してください。
- **スケジュール切断確認画面について（スケジュール機能使用時のみ）**
  「切断確認画面表示時間」は、スケジュールによる電源切断時に切断の有無の確認画面を表示する時間を指定します。本設定はインストール時に 10 秒に設定されています。本設定時間を変更する場合には、本ソフトウェアをインストールしたフォルダ内にある「Rs232c.dat」ファイルをエディタ（メモ帳など）で開き、次に示す値を変更してください。切断確認画面表示時間の変更後は、本パソコンを再起動してください。変更前に「Rs232c.dat」ファイルをコピーしておくことをお勧めします。

  COM1
  009600
  8
  0
  2
  07
  07000
  000
  010 **→切断確認画面表示時間（秒単位：000 ～ 999）**

- **シャットダウン時間について**
  シャットダウン時にアプリケーションなどが終了処理を行う時間を確保する場合に本設定を行います。イベント連携時にアプリケーションの実行を行う場合などにアプリケーションの実行時間を想定して設定してください。本設定はインストール時に 0 **秒に設定されています。シャットダウン時間を変更する場合には、インストールしたフォルダ内にある「**Rs232c.dat**」ファイルをエディタ（メモ帳など）で開き、次に示す値を変更してください。シャットダウン時間の変更後は、本パソコンを再起動してください。変更前に「**Rs232c.dat**」ファイルをコピーしておくことをお勧めします。**

  COM1
  009600
  8
  0
  2
  07
  07000
  000 **→シャットダウン時間（秒単位：**000 ～ 999**）**
  010
- **スケジュールの遅延について**
  スケジュール時間は、10 **秒程度の遅れが発生する場合があります。**
- **スクリーンセーバーについて**
  本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL**」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。**

第 3 章

リカバリとインストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明しています。

1 **リカバリ** 36
2 **ソフトウェアのインストール** 40

1　リカバリ

Windows が起動されないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「プレインストール仕様」（→ P.16））に戻す操作です。

留意事項

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- リカバリを行うと、C ドライブは FAT32 に設定されます。C ドライブを NTFS に変換していた場合は、リカバリ後再度 NTFS に変換してください（→ P.53）。
- オプションを取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- カスタムメイドオプションのアプリケーションはリカバリされません。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

1. **「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピー（→ P.14）**
2. **ハードディスクの領域設定（必要に応じて）（→ P.37）**
3. **リカバリ（→ P.38）**

リカバリ終了後

リカバリ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（→ P.21）。
また、必要に応じて添付アプリケーションやカスタムメイドのアプリケーションをインストールしてください（→ P.44）。

POINT

- **リカバリを行ったあとは、音量がご購入時の状態に戻ります。スピーカー音を調整するには、タスクバーのスピーカーアイコンをクリックし、表示された音量調整つまみで行ってください（〔CX〕はミュート状態になります）。**

ハードディスクの領域を設定する

C ドライブをご購入時の状態と異なる容量に変更したい場合、領域を設定します。
領域の設定には、FDISK コマンドを使用します。
手順の流れを確認後、FDISK を起動してください。

■ 手順の流れ

1 FDISK で領域を削除する

非 MS-DOS 領域（ご購入時の D ドライブ）と基本 MS-DOS 領域（ご購入時の C ドライブ）を削除します。

2 FDISK で領域を作成する

希望する容量の基本 MS-DOS 領域を作成します。D ドライブ以降は、Windows2000 の「コンピュータの管理」ダイアログボックスの「ディスクの管理」で作成できます。

■ FDISK の起動方法と概要

FDISK は、次の手順で起動してください。
次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」
- コピーした「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（→ P.14）

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「Windows2000 リカバリメニュー」が表示されたら、【2】キーを押します。

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか ...？」と表示されます。
「FDISK オプション」が表示されます。

4 次の説明と画面のメッセージを参照し、領域を設定します。

- **MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成**
  基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成する場合に選択します。

POINT

- **基本 MS-DOS 領域は、リカバリに必要な領域（最低 2GB）に設定してください（ご購入時には約 4GB に設定されています）。**

- **アクティブな領域を設定**
  基本 MS-DOS 領域をアクティブ（領域に OS をインストールしたら起動できる状態）にする場合に選択します。なお、基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てた場合は、自動的にアクティブに設定されます。アクティブな領域は、「状態」に「A」と表示されます。

重 要

- **基本 MS-DOS 領域（領域 C）をアクティブに設定しないと、ハードディスクから起動できません。基本 MS-DOS 領域は、必ずアクティブに設定してください。**

- **領域または論理 MS-DOS ドライブを削除**
  すでに設定されている基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブ、非 MS-DOS 領域（NTFS）を削除する場合に選択します。
- **領域情報を表示**
  現在の設定を確認する場合に選択します。
- **現在のハードディスクドライブを変更（ハードディスクを増設している場合に表示されます）**
  FDISK を起動すると、プライマリマスターのハードディスクを設定できる状態になります。これを増設したハードディスクに切り換える場合に選択します。

リカバリ方法

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の手順を説明します。
次のものを用意してください。

- コピーした「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（→ P.14）
- 「リカバリ CD-ROM」

POINT

- **リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。**

1 BIOS の設定をご購入時の設定に戻します。

ご購入時の設定に戻すには、BIOS セットアップ（→『ハードウェアガイド』参照）の設定を初期値に戻してください。
BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定に変更していると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

2 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

3 本パソコンを再起動します。

4 「Windows 2000 リカバリメニュー」が表示されたら、【1】キーを押します。

「ハードディスクの内容を全て初期化します。」と表示されます。

5 メッセージをよく読み、何かキーを押します。

本パソコンが再起動し、C ドライブがフォーマットされます。フォーマット終了後、「CD-ROM ドライブに「リカバリ CD-ROM 1 枚目」をセットし、しばらくしたら「Y」キーを押してください.」と表示されます。

6 「リカバリ CD-ROM」をセットし、アクセスランプが消えたら【Y】キーを押します。

あとは、メッセージに従って操作します。

リカバリが終了すると「マスタイメージのリストアが正常に終了しました。」と表示されます。

7 CD-ROM とフロッピーディスクを取り出してから、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動します。

8 以降、第 1 章を参照して操作してください（→ P.10）。

2 ソフトウェアのインストール

一部のドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

重 要

- **添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。**
  なお、「ドライバーズ CD」の Indexcd.htm もご覧ください。

ドライバのインストール

リカバリ後、ドライバを再インストールする必要はありません。何らかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。
ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は次の表の場所にあります。

ドライバ	機種	インストール手順の保存場所とファイル名
ディスプレイドライバ	〔TX〕〔ML〕	「ディスプレイドライバのインストール（〔TX〕〔ML〕）」（→ P.41）をご覧ください。
	〔FMV-6800SL5〕	「ドライバーズ CD」内の\W2k\Ati\Disk1\Readme4xl.txt
	〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕〔CX〕	「ドライバーズ CD」内の\W2k\I810\Install.txt
サウンドドライバ	〔TX〕〔CL〕〔CX〕	「ドライバーズ CD」内の\W2k\Cs4281\Inst2000.txt
	〔SL〕	「ドライバーズ CD」内の\W2k\Cs4299\Install.txt
	〔ML〕	「サウンドドライバのインストール（〔ML〕）」（→ P.42）をご覧ください。
LANドライバ	全機種	「ドライバーズ CD」内の\W2k\Landrv\Readme.txt

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt または Install.txt をご覧ください。

POINT

- **〔CL〕でデジタルディスプレイをお使いの場合は、ディスプレイドライバをインストールする前に「Fujitsu Digital LCD Utility」をインストールしてください。**
- **本ユーティリティは「ドライバーズ CD」の「Update」フォルダにあります。詳しくは、同フォルダ内の Readme.txt をご覧ください。**

ディスプレイドライバのインストール（〔TX〕〔ML〕）

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「ディスプレイアダプタ」をダブルクリックします。

5 次のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
〔TX〕 「ATI Technologies Inc. RAGE 128 4X AGP 4X」
〔ML〕 「ATI Technologies Inc. 3D RAGE LT PRO AGP 2X」

6 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

8 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「デバイスドライバの選択」と表示されます。

9 以下のモデルを選択し、「次へ」をクリックします。
〔TX〕 「ATI Technologies Inc. RAGE 128 4X AGP 4X」
〔ML〕 「ATI Technologies Inc. 3D RAGE LT PRO AGP 2X」
「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されます。

10 「次へ」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されます。

11 「完了」をクリックします。

12 「閉じる」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。

13 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

■ **ディスプレイの設定**
ディスプレイが自動的に設定されなかった場合は、続けて次の操作を行ってください。

1. Administrators **グループのメンバーとしてログオンします。**
2. **「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. **「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。**
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
4. **「モニタ」をダブルクリックします。**
5. **「プラグアンドプレイモニタ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
6. **「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。**
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
7. **「次へ」をクリックします。**
8. **「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。**
9. **「場所の指定」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。**
10. **「製造元のファイルのコピー元」に以下のように入力し、「**OK**」をクリックします。**
`[CD-ROMドライブ]:\w2k\dispinf`
11. **「次へ」をクリックします。**

POINT

- **「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。**

「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。

12. **「完了」をクリックします。**
13. **すべてのダイアログを閉じます。**

サウンドドライバのインストール（〔ML〕）

「デバイスマネージャ」－「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の「YAMAHA Native DS1 WDM Driver」を削除し、本パソコンを再起動して Administrators グループでログオンしてください。
しばらくすると「新しいハードウェアが見つかりました」と表示され、自動的にドライバがインストールされます。

プレインストールソフトのインストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。アンインストールしたソフトウェアを再度インストールする場合のみ、次の方法でインストールしてください。

POINT

- **カスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールする方法は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。**

Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   `[CD-ROMドライブ]:\w2k\fmadv\advisor\setup.exe`

このあとは、メッセージに従って操作します。

Acrobat Reader のインストール

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   `[CD-ROMドライブ]:\wk2\ac\acrd4jpn.exe`
4. 「次へ」を 2 回クリックします。
5. 「情報」で「OK」をクリックします。
6. 本パソコンを再起動します。

FMV 診断のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

   [CD-ROMドライブ]:\w2k\fmvdiag\enterprise\disk1\setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

POINT

- **インストール後、「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合があります。この場合は、「C:\Fjuty\Fmvdiag\Fmvdiag.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。**

添付ソフトのインストール

VirusScan のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

   [CD-ROMドライブ]:\w2k\vsnt\setup.exe

インストールが始まります。次のポイントを参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- **「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、Administrators グループの「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。**

FMKEEPER のインストール（〔ML〕除く）

インストール手順につきましては、「ドライバーズ CD」内の
「\W2k\FMkeeper\FMKEEPER\Readme.txt」をご覧ください。

FM-Menu のインストール

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
[CD-ROMドライブ]:\w2k\fmmenu\setup.exe
```

このあとは、メッセージに従って操作します。

光磁気ディスク・ユーティリティのインストール

POINT

- 〔TX〕〔SL〕〔ML〕にはプレインストールされています。

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
[CD-ROMドライブ]:\w2k\moformat\moformat.msi
```

このあとは、メッセージに従って操作します。

はじめよう！インターネット（@nifty）のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
[CD-ROMドライブ]:\w2k\niftysgn\niftysgn\setup.exe
```

このあとは、メッセージに従って操作します。

NIFTY MANAGER のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

   `[CD-ROMドライブ]:\w2k\nifty\niftynim\setup.exe`

インストールが始まります。次のポイントを参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- 「NIFTY MANAGER for Windows 3.1 をインストール済みの場合その ID、アクセスポイント等を引き継ぐことが可能です」と表示されたら、「いいえ」をクリックしてください。

PMAN のインストール

POINT

- リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。
- PMAN の詳細については、「Power MANagement for Windows」(→ P.31) をご覧ください。

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。
   - 〔TX〕の場合

     `[CD-ROMドライブ]:\w2k\pman\pmansub\setup.exe`
   - 〔SL〕〔CL〕〔CX〕〔ML〕の場合

     `[CD-ROMドライブ]:\w2k\pman\pmanfull\setup.exe`

   ことあとは、メッセージに従って操作します。

第 4 章

困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1 こんなときには 48
2 それでも解決できないときは 54

1　こんなときには

ここでは、Windows2000 の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

Windows2000 に関して

添付の Windows2000 のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

Q　プログラムが動かなくなってしまった

A
1【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2「タスクマネージャ」をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
3 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスを閉じます。

POINT

- **プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。**
- **プログラムを強制終了した場合は、次の手順でディスクをチェックすることをお勧めします。**
  1 **実行中のプログラムをすべて終了します。**
  2 **「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。**
  3 **プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
  4 **「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。**
  5 **「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックし、C ドライブを検査する場合は、「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows2000 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。**
  6 **「OK」をクリックします。**

Q　マウスが使えないため、Windows2000 を終了できない

A　キーボードを使って Windows2000 を終了できます。

1【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
2【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
3【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。
Windows2000 が終了します。

マウスが故障している場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元に連絡してください。

Q　ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

A1　Windows2000 が起動されないときは、Safe モードで起動してください。

手順は次のとおりです。
1 本パソコンの電源を入れます。
2「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
3「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
4「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
5「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
6「Microsoft Windows 2000 Professional」を選択し、【Enter】キーを押します。
7 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
8「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
9「OK」をクリックします。

A2　各ドライバをインストールし直す必要があります。

お使いの機種に対応する各ドライバは、プレインストール仕様のデバイス一覧（→ P.18）でご確認ください。インストール方法については、「ドライバのインストール」（→ P.40）でをご覧ください。

Q　PC カードが使えない

A1　PC カードのドライバはインストールされていますか？

Windows2000 にあらかじめ登録されていない PC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバ（Windows2000 対応のもの）をインストールする必要があります。PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。

A2　**IRQ リソースは足りていますか？**

IRQ リソースが不足する場合があります。次の操作を行ってください。

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
4 お使いにならないデバイス（プリンタなら「ポート（COM と LPT)」など）をダブルクリックします。
5「プリンタポート（LPT1)」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
6「全般」タブの「デバイスの使用状況」を「このデバイスを使わない（無効）」に設定します。
7「OK」をクリックします。
8 すべてのダイアログボックスを閉じます。

Q　**アプリケーションのインストールが正常に行われない**

A　**ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。**

ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。

ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

Q　**オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない**

A　**本パソコンでは、次のパソコン診断アプリケーションを用意しています。**

FM Advisor

FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

1「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM　Advisor」→「FM　Advisor」の順にクリックします。
調査結果が表示されます。

FMV 診断

FMV 診断の使用方法は次のとおりです。

1「スタート」ボタン→「FMV 診断」の順にクリックします。
このあとはメッセージに従って操作してください。

POINT

- **起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。**
- **スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。**
- **フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。**
- **CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。**

Windows2000 に関する Q&A

Q　**〔CX〕で光磁気ディスクを使用するには？**

A　**PC カード（SCSI）接続の光磁気ディスクドライブを使用できます。**

Q　**光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用するには？**

A　**光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用してください。**〔TX〕〔SL〕〔ML〕**はプレインストールされています。**〔CL〕〔CX〕**はインストールが必要です（**→ P.45**）。なお、「光磁気ディスク・ユーティリティ」は、**SCSI **規格／**ATAPI **規格の光磁気ディスクドライブで使用できます（**〔CL〕〔CX〕**は **SCSI **規格のみ）。**
なお、光磁気ディスク・ユーティリティの使用方法については、「ドライバーズ CD」の「\W2k\Moformat\Readme.txt」をご覧ください。

Q　**キーボードの** NumLock **がオンの状態で、**Windows2000 **を起動する方法は？**

A　Windows2000 **上で【**NumLock**】キーを押し、**NumLock **をオンにします。次回起動時からは、**NumLock **がオンの状態で** Windows2000 **が起動されます。**

Q　Windows95 **や** MS-DOS **のように、パソコン同士をシリアルケーブルで接続してデータのやりとりができますか？**

A　RAS（Remote Access Service）**の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でのデータのやりとりが可能です。**

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2「コントロールパネル」ウィンドウの「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。
3 所在地情報を入力するダイアログボックスが表示された場合は、所在地の設定を行い「OK」をクリックします。
「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが表示されます。
4「モデム」タブをクリックし、「追加」をクリックします。
「ハードウェアの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
5「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。
6「製造元」から「(標準モデムの種類)」を、「モデル」から「2 台のコンピュータ間の通信ケーブル」を選択し、「次へ」をクリックします。
7「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn（n には数字が表示されています）をクリックして、「次へ」をクリックします。
8「完了」をクリックします。
9「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

Q　**ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？**

A　**あります。**

Q　自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）の設定方法は？

A　Windows2000 **セットアップ時に「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合は、ログオン時に「**Windows**へログオン」ダイアログボックスが表示され、パスワードの入力を求められます。次の手順で自動ログオンが可能になります。なお、自動ログオンは、本パソコンがネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している場合に設定できます。**

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2「コントロールパネル」ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
3 自動ログオンするユーザー名をクリックし、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります」のチェックを外します。
4「OK」をクリックします。
「自動ログオン」ダイアログボックスが表示されます。
5「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

POINT

- **自動ログオン機能を使用した場合、正規ユーザー以外が本パソコンを使用したり、ネットワークにログインしたりすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。**
- **ネットワーク環境で自動ログオン機能を使用する場合、起動時にサーバーに接続できない場合があります。この場合は、サーバーへの再接続を行ってください。**

Q　**WindowsNT **のように【Ctrl**】+【**Alt**】+【**Delete**】キーを押してからログオンするには？**

A　次の手順で設定してください。

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2「コントロールパネル」ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
3「詳細」タブをクリックします。
4「ブート時のセキュリティ設定」の「ユーザーがログオンする前には必ず Ctrl+Alt+Del キーを押す」をチェックし、「OK」をクリックします。

POINT

- **自動ログオン機能を有効にしている場合は自動ログオン機能が優先されるため、電源を入れたときや再起動したときには、キー入力は求められません。スタンバイや休止状態からの復帰時にのみキー入力を求められます。**

Q　マウスポインタのデザインを変えるには？

A　「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックし、「ポインタ」タブで設定してください。

Q　ファイルシステムを NTFS に変換する方法は？

A　ファイルシステムを NTFS に変換すると、セキュリティや信頼性を強化できます。変換方法は、次のとおりです。

POINT

- **NTFS に変換した場合、Windows2000、WindowsNT 4.0（Service Pack4 以降）以外の OS からは、ファイルにアクセスできなくなります。**
- **すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。**
- **NTFS 区画のドライブに対して chkdsk.exe を実行しないでください。問題が発生することがあります。**

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert  n:  /fs:ntfs  /v
```

（n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します）

C ドライブを変換する場合は、次のメッセージが表示されます。

「ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

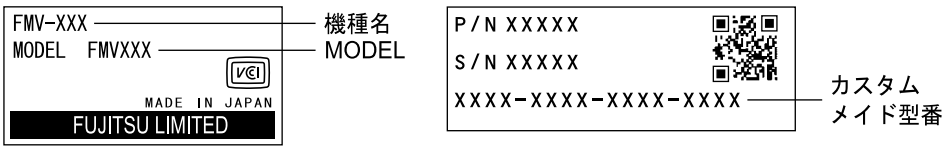
4【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。
5「コマンドプロンプト」ウィンドウを閉じ、Windows2000 を再起動します。
変換が行われます。このとき、Windows2000 は 2 回再起動します。

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番を確認し、次のページのシートに環境とトラブル状況などを記入してください。

機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番の表記場所

パソコン本体背面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	弊社パーソナルエコーセンター※またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	FM インフォメーションサービス※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	本書の冒頭に記載されている「お問い合わせ一覧」（→ P.5）

※：パーソナルエコーセンターと FM インフォメーションサービスの連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス （カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット （製品の技術情報、Q&A 情報）	富士通パソコンホームページ FM WORLD http://www.fmworld.net/
FM シリーズの音声による Q&A 情報	FM インフォメーションテレホンガイド 0120-89-2235

お問い合わせ前の確認シート

お使いのパソコンの機種は？	機種名：FMV-	MODEL：FMV
	カスタムメイド型番：	
	購入日：	購入店：

メモリの容量は？	本体標準：　　MB	
	増設：　　MB	［メーカー：　　］ ［型番：　　］

増設した周辺機器は？	**種類**	**型番号**	**メーカー**

お使いのソフトウェアは？	**ソフトウェア名**	**バージョン／レベル**	**メーカー**
	Windows 2000 Professional	5.00.2195	—

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに起こりましたか？	
エラーメッセージは表示されましたか？その内容は何ですか？	
以前は問題なく動作していましたか？	・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

第 5 章
技術情報

お使いになるうえでの留意事項を説明しています。

1 **その他の留意事項** 58

1　その他の留意事項

本パソコンをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

Windows2000 の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows2000」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:\support\i386」を指定してください。

重　要

- **上記フォルダは削除しないでください。削除すると、ネットワークコンポーネントの追加などができなくなります。**

本パソコンで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本パソコンおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本パソコンに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。
また、本パソコンに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本パソコンにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。
バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（→ P.43）。

ネットワーク運用時の省電力機能

ネットワーク環境下で省電力状態へ移行すると、お使いになるアプリケーションによっては、復旧後に不具合が発生する場合があります。
不具合が発生した場合は、本パソコンを再起動してください。
また、通信中は省電力状態へ移行させないでください。

Wakeup On LAN 機能

POINT

- **Wakeup On LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN（→ P.31）を使用してください。**
- **省電力機能使用中に、ネットワークがアクティブになりスタンバイ状態に移行できない場合があります。その場合は、「ドライバーズ CD」の「\Update\Lan\Uty\Readme.txt」を参照し、「LAN ドライバパラメータ設定ツール」を使用してください。**

ネットワーク環境下で Wakeup On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 Administrators **グループのメンバーとしてログオンします。**

2 **「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。**
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

4 **「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**

5 **以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

〔TX〕	「Intel(R) 82559 Fast Ethernet LOM with Alert on LAN 2*」
〔SL〕〔CL〕〔CX〕〔ML〕	「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」
セキュリティ LAN モデル	「Intel(R) PRO/100 S Management Adapter」

6 **「電源の管理」タブをクリックします。**

7 **以下の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。**
- このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする
- 電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする

Wakeup on LAN 機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。

1 Administrators **グループのメンバーとしてログオンします。**

2 **「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。**
「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 **「電源設定」タブの「システム スタンバイ」または「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。**

POINT

- **設定値が 20 分より短いと、パソコン本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく 20 分よりも長い値を設定してください。**

ネットワーク使用時の留意事項

次の LAN デバイスを複数使用したネットワーク運用は行えません。

- 2 枚の LAN カード
- パソコン本体の内蔵 LAN デバイスと LAN カード

LAN の設定を変更する

次の場合、ご使用になる環境に合わせて設定を行ってください。

- 本パソコンをハブユニットに接続した時、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない

■ ローカルアドレスを使用する

重 要

- Intel(R) PROSet **はパラメータの変更のみにご使用ください。**

1 Administrators **グループのメンバーとしてログオンします。**

2 **「コントロールパネル」ウィンドウの「**Intel(R) PROSet**」アイコンをダブルクリックします。**

3 **「**Advanced**」タブをクリックします。**

- **スピードとデュプレックスの設定**

  本パソコンをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、以下の設定を変更してください。

  Link Speed & Duplex：「Setting」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「Value」から通信速度／通信方式を指定します。

  100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

  100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

  10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

  10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

  Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

  POINT

  - Full Duplex**に設定する場合、ハブユニット側も** Full Duplex**に設定する必要があります。**

- **ローカルアドレスの設定**

  ローカルアドレスを使用する場合は、以下の設定を変更してください。

  Locally Administered Address：「Setting」の「Locally AdministeredAddress」をクリックし、「Value」に「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。

  グローバルアドレスに戻したい場合は、「Restore Default」ボタンをクリックします。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

4 「OK」をクリックします。

5 すべてのダイアログボックスを閉じます。

ACPI モード

ご購入時、本パソコンは ACPI（Advanced Configuration and Power Interface）モードに設定されています。APM（Advanced Power Management）モードへの変更はできません。
ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法（→ P.62）を説明します。

■ オプションに関する注意

オプションが ACPI モードに対応している必要があります。ACPI モードに対応していないオプションを接続すると、オプションが使用できなくなる、またはスタンバイモードから復帰できなくなる場合があります。事前にオプションが ACPI モードに対応しているかどうかをオプションのメーカーに確認してください。
なお、最新ドライバに変更することで ACPI モードに対応できるオプションもあります。詳細はオプションのメーカーに確認してください。

■ 使用できない機能

- **BIOS セットアップの省電力メニュー**
  BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』をご覧ください。

■ その他の注意

- ACPI の制御およびすべての PCI デバイスが、システムリソースの「IRQ9」を使用します。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- 〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕〔CX〕の場合、ACPI S3 スタンバイ状態からの復帰処理途中で、画面が乱れることがあります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイ状態にならない／スタンバイ状態から復帰しない／復帰後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
  - Windows2000 の起動中／シャットダウン処理中
  - ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
  - 動画の再生中や音楽の録音、再生中
  - モデムやネットワークの通信中
  - マウスの操作中
  - プリンタ印刷中
  - ACPI モードに対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合

- 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」を次のように設定し、電源スイッチや「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「スタンバイ」の順にクリックして強制的にスタンバイ状態にさせず、アイドル状態のときだけ移行させてください。
  - 「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定します（ご購入時設定済）。これにより、電源スイッチを使った強制的なスタンバイ状態への移行を回避できます。
  - 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で移行するまでのアイドル時間（たとえば「30 分後」）を設定します。これにより、ファイルアクセス中や通信中などにスタンバイ状態への移行を回避できます。
- スタンバイ状態へ移行するときに、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」と警告ダイアログボックスが表示される場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイ状態へ移行させるためには、動作中のプログラムを終了させてください。

■ スタンバイ状態からの復帰条件

ACPI モードの標準（ACPI S1）／高度（ACPI S3）のスタンバイ状態から、次の表で○になっている復帰要因で通常の状態に復帰させることができます。

復帰要因	ACPI モード 標準（ACPI S1）	ACPI モード 高度（ACPI S3）※ 7
電源スイッチ※ 1	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス※ 2	○	×
USB キーボード、USB マウス※ 2	○	×
時刻指定※ 3	○	○
LAN※ 4	○	○
モデム着信（Ring Indicator 信号）※ 5	○	○
PCI 拡張カード（PME# 信号）※ 6	○	○

※ 1：「コントロールパネル」ウィンドウ－「電源オプション」－「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰します。

※ 2：「デバイスマネージャ」の「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の下にあるデバイスをダブルクリックし、「電源の管理」タブで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」をチェックした場合
PS/2 キーボード、PS/2 マウスについては、〔SL〕〔CL〕〔CX〕のみ設定が可能です。

※ 3：「タスク」を使用した場合

※ 4：「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの以下の項目をチェックする必要があります。
・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

※ 5：通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります（〔TX〕では、COM1 のみ）。

※ 6：PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード（PCI Revision 2.2 規格に準拠）を搭載した場合

※ 7：〔TX〕〔ML〕はサポートしていません。

■ ACPI のスタンバイモードを設定する（〔TX〕〔ML〕除く）

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 標準（ACPI S1）… CPU の動作を停止します。
- 高度（ACPI S3）…メモリ以外の装置の動作を停止します。標準（ACPI S1）と比較し、省電力に優れる一方で通常の状態への復帰には時間がかかります。

ご購入時には、標準（ACPI S1）に設定されています。高度（ACPI S3）に設定する方法は、以下のとおりです。

重 要

- **〔TX〕〔ML〕は、標準（ACPI S1）のみサポートしています。高度（ACPI S3）に切り替えることはできません。**
- **オプションを増設して、スタンバイモードを高度（ACPI S3）で使用するには、増設するオプションが高度（ACPI S3）に対応している必要があります。**
  対応していない場合は、高度（ACPI S3）にならず、標準（ACPI S1）になってしまったり、スタンバイ状態から復帰しなかったり、復帰したあとに正しく動作しなかったりする場合があります。特に必要のない場合は、標準（ACPI S1）の設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

1 **BIOS セットアップで、スタンバイモードを高度（ACPI S3）に設定します。**

〔SL〕〔CL〕　「省電力」－「ACPI 設定」－「スタンバイモード」：高度
〔CX〕　　「省電力」－「スタンバイモード（ACPI）」：高度

2 **Administrators グループのメンバーとしてログオンします。**

3 **「ドライバーズ CD」をセットします。**

4 **「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「エクスプローラ」をクリックします。**

5 **「ドライバーズ CD」の「W2k\Regfle」フォルダを開きます。**

6 **フォルダ内の「Dtpower.reg」をダブルクリックします。**
「レジストリエディタ」ダイアログボックスが表示されます。

7 **「はい」をクリックし、続いて表示されるダイアログボックスで「OK」をクリックします。**

8 **本パソコンを再起動します。**

POINT

- **上記操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」で、再設定してください。**
- **〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕で、BIOS セットアップの「省電力」－「ACPI 設定」－「スタンバイモード」を「高度」に設定する場合は、BIOS セットアップの「省電力」－「ACPI 設定」－「ディスプレイアダプタの初期化」を「使用する」に設定してお使いください。なお、増設するグラフィックスカードによっては、マルチモニタ使用時に「使用する」に設定していると、スタンバイ状態から復帰できなくなる場合があります。その場合は、「使用しない」に設定してください。**
- **〔CX〕の場合、BIOS セットアップの「省電力」－「スタンバイモード（ACPI）」を「高度」に設定している場合は、BIOS セットアップの「PnP/PCI」－「ディスプレイアダプタの初期化」を「使用する」に設定してお使いください。**

休止状態に関する留意事項

次の状態で休止状態に移行させると、休止状態にならない／休止状態から復帰しない／復帰後に正常に動作しない／データが消失するなどの問題が発生することがあります。

- Windows2000 の起動中／シャットダウン処理中
- ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
- 動画の再生中や音楽の録音、再生中
- モデムやネットワークの通信中
- マウスの操作中
- プリンタ印刷中
- 休止状態に対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合

ディスプレイドライバ

- 〔TX〕〔FMV-6800SL5〕で、アプリケーションが正常に動作しない場合は、ディスプレイドライバをインストールし直してください。インストール方法については、「ドライバのインストール」（→ P.40）をご覧ください。
- お使いのアプリケーションによっては、正しく表示されない場合があります。この場合は、アプリケーションが Windows2000 に対応しているか、メーカーにお問い合わせください。
- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に 3D グラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- アプリケーションをお使いのとき、アイコン表示やウィンドウの一部などが画面に残ったり、アプリケーションのウィンドウ内で再描画されずにゴミが残っているように見えたりする場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。
  1. ウィンドウの右上の最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
  2. タスクバーの最小化されたアプリケーションを右クリックし、「元のサイズに戻す」をクリックすると、再表示されます。
- 本パソコンにインストールされているディスプレイドライバは、DirectX7.0a 対応です。DirectX1、DirectX2、DirectX3、DirectX5、DirectX6、DirectX7 のランタイムはインストールできません。必ず、DirectX7.0a のランタイムをお使いください。
- 画面表示の開始時やディスプレイドライバのインストール時、表示モードが切り替わるとき（Windows2000 の起動、終了画面やスタンバイ状態およびシステム休止状態から復帰するときなど）、一時的に画面が乱れたり横線が見えたりする場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 256 色 / True Color（24 ビット）の設定では、Direct3D のハードウェアアクセラレーション（HAL）はサポートしていません。色数を 256 色 / True Color（24 ビット）に設定した状態で Direct3D 対応のアプリケーションを表示させるとソフトウェアでの実行となるため、表示速度や表示画質に問題が発生する場合があります。この場合は、色数を High Color（16 ビット）に設定してください。

- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- アプリケーション（ゲームソフトを含む）が正常に動作しないときは、色数の設定を変更するか、次の操作を行うことで、正常に動作する場合があります。
  1「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
  2「トラブルシューティング」タブをクリックします。
  3「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定し、「OK」をクリックします。
  4 本パソコンを再起動します。
  なお、上記の手順を行っても、アプリケーションによっては性能低下や音声ノイズなどの問題が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 〔TX〕〔FMV-6800SL5〕〔ML〕の場合、次の操作を行うと文字がつぶれて見えることがあります。
  - 「コマンドプロンプト」をウィンドウ状態で使用中、「US」モードに変更→フルスクリーンに変更→「JP」モードに変更、の順に操作
- 〔TX〕〔FMV-6800SL5〕〔ML〕の場合、「メモ帳」などで Fixedsys フォントを使用すると、「太字」および「太字斜体」を選択してもフォントが正しく表示されないことがあります。
- 〔TX〕〔FMV-6800SL5〕〔ML〕の場合、「コマンドプロンプト」がフルスクリーンの状態ではスタンバイから復帰できないことがあります。フルスクリーンで「コマンドプロンプト」を使用する場合は、事前にスタンバイ設定を「なし」に設定してください。
- 〔TX〕〔FMV-6800SL5〕〔ML〕の場合、OpenGL スクリーンセーバーを選択し、そのまま「画面のプロパティ」ダイアログボックスを左右にドラッグすると、プレビューウィンドウがデスクトップに残ることがあります。
- 〔TX〕の場合、Sync On Green に対応したディスプレイでは、ディスプレイの省電力機能が正しく動作しないことがあります。ディスプレイが Sync On Green に対応しているかどうかはメーカーにお問い合わせください。
- 〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕〔CX〕の場合、「画面のプロパティ」において、ビデオメモリの容量が正しく表示されませんが故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕〔CX〕の場合、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで色数を変更する（特に 256 色に変更する）と、次の現象が発生する場合があります。
  - スクリーンセーバーから復帰したときに、背景の色が反転して表示される
  - アプリケーションによっては、色が正しく表示されない
  - アプリケーションによっては、ウィンドウを切り替えたときに異常な色で表示される
- 〔SL〕〔CL〕でデジタルディスプレイをご使用の場合、リフレッシュレートで「60 ヘルツ」以上を選択できることがありますが、実際に出力されるリフレッシュレートは「60 ヘルツ」です。
- 〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕で、デジタルディスプレイをご使用の場合、コマンドプロンプトをフルスクリーン／ US モードにすると、ディスプレイの中央に画面が表示されなかったり、「UNSUPPORTED MODE SEE USER'S MANUAL」と表示されることがあります。この場合は、「コマンドプロンプトのプロパティ」ダイアログボックスの「レイアウト」タブで「画面バッファのサイズ」の「高さ」を変更すると本現象が発生しなくなることがあります。
- 〔CX〕の場合、リフレッシュレートで「60 ヘルツ」以上を選択できることがありますが、実際に出力されるリフレッシュレートは「60 ヘルツ」です。

- 〔CX〕でコマンドプロンプトをフルスクリーン／ US モードでお使いになる場合、ディスプレイの中央に画面が表示されなかったり、「UNSUPPORTED MODE SEE USER'S MANUAL」と表示されることがあります。この場合は、「コマンドプロンプトのプロパティ」ダイアログボックスの「レイアウト」タブで「画面バッファのサイズ」の「高さ」を変更すると本現象が発生しなくなることがあります。
- 〔CX〕、デジタルディスプレイを接続した〔CL〕〔SL〕では、次の場合に、スケーリングされないで、表示画面が小さくなることがあります。
  - 「Windows2000 拡張オプションメニュー」で「VGA モードを有効にする」を選択して起動し、スタンバイ状態または休止状態から復帰した場合
  - スタンバイ状態から復帰したあとの「コマンドプロンプト」のフルスクリーン表示（FMV-6800SL5 を除く）
  - スタンバイ状態から復帰したあとの「休止状態」に移行する際の移行画面（FMV-6800SL5 を除く）
- 〔FMV-6800SL5〕の場合、「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、OpenGL スクリーンセーバーを表示したまま、Office アシスタントを表示すると、Office アシスタントが点滅することがあります。この場合、画面のプロパティを閉じてください。
- 〔FMV-6800SL5〕の場合、モニタの設定で、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外すと、すべてのリフレッシュレートが表示されますが、リフレッシュレートによっては正しく設定されないことがあります。
- 〔FMV-6800SL5〕で、DDC 機能のないモニタをお使いの場合には リフレッシュレートは 60Hz のみ選択できます。
- 〔FMV-6800SL5〕で、「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで「3D パイプスクリーンセーバー」を表示中に、他のウィンドウを重ねると、画面が正しく表示されないことがあります。この場合は、「画面のプロパティ」を閉じてください。
- 〔SL〕〔CL〕で、マルチモニタの機能をお使いの場合、「3D パイプスクリーンセーバー」を使用すると、アプリケーションエラーや、表示が正しくされないことがあります。この場合、他のスクリーンセーバーをお使いください。
- 〔FMV-6800SL5〕で、デジタルパネルとアナログモニタを同時にお使いの場合には、デジタルパネル側のリフレッシュレートしか選択できません。
- 〔FMV-6800SL5〕で、デジタルパネルとアナログモニタを同時にお使いの場合には、デジタルパネルの最大解像度より大きな解像度には設定できません。

表示されるメモリサイズ（〔SL〕（FMV-6800SL5 を除く）〔CL〕〔CX〕）

- 「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

「コンポーネントサービス」の留意事項

「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。

ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ－「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きることがあります。このエラーが起こると、本パソコンの動作が不安定になります。

この場合は、本パソコンを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。

FMV シリーズをご利用の方へ

「コンピュータの管理」で「記憶域」－「リムーバブル記憶域」－「物理的な場所」を表示した場合、CD-ROM ドライブユニットが１つしかないにもかかわらず 2 つ表示されることがあります。この場合は、赤い×印のついているドライブを選択し、「操作」メニュー→「削除」の順にクリックして削除してください。

ネットワーク識別ウィザードについて

LAN モデルでは、Windows2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

省電力設定について

省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、Administrator でログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。
必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウ－「電源オプション」で設定してください。

Outlook Express のパスワードについて

Administrator でログオン時に、インターネット接続ウィザード中に設定したメールのパスワードが、Outlook Express に反映されません。
Outlook Express 起動後にメールのパスワードをもう一度設定してください。

インターネットに接続されていない環境でのオンラインサポートについて

インターネットに接続されていない環境では、オンラインサポートをご利用になることはできません。お手数ですがインターネットに接続してから実行してください。
　富士通パソコンホームページ FM WORLD：http://www.fmworld.net/

索引

A

ACPI **モード** 61
Acrobat Reader 16
　ーのインストール 43

D

DirectX7.0a. 16
DMA **の設定** 20
DVD/CD-ROM **ドライブ** 18

F

FAT16 20
FAT32 20
FDISK 37
FM Advisor 16, 50
FMKEEPER 17
　ーのインストール 44
FM-Menu 17
　ーのインストール 45
FMV **診断** 16, 50
　ーのインストール 44
Fujitsu Digital LCD Utility 17

I

IDE ATA/ATAPI **コントローラ** 18
Internet Explorer 5.0 16

L

LAN
　ードライバのインストール 40
　ーの設定を変更する 60

M

Microsoft IME 2000 16
MODEL 54

N

NIFTY MANAGER. 17
　ーのインストール 46
NTFS. 20
　ーへの変換 53
NumLock. 51

P

PCMCIA **アダプタ** 18
Power MANagement for Windows
（PMAN**）** 17, 31
　ーのインストール 46

Q

Q&A. 51

S

SCSI **と** RAID **コントローラ** 18

U

USB（Universal Serial Bus）
コントローラ 18

V

VirusScan 17, 24
　ーのインストール 44

W

Wakeup On LAN **機能**. 58
Windows2000 16
　ーセットアップ 10
　ーの CD-ROM 58
Windows **環境調査ツール**
（FM Advisor**）** 16
　ーのインストール 43

あ

アンインストール 21
色数 27
お問い合わせ前の確認シート 55

か

解像度 27
カスタムメイド型番 54
キーボード 18
機種名 54
コンピュータ 18
コンピュータウイルス
　－の被害届け 25
　－を発見した場合 25

さ

サウンドドライバのインストール 40
サウンド、ビデオ、および
ゲームコントローラ 19
自動ログオン 52
情報サービス 54
情報処理振興事業協会 25
シリアルケーブル接続 51

た

ディスクドライブ 19
ディスプレイ
　－アダプタ 19
　－ドライバのインストール 40, 41
　－の設定 42
ドライバーズ CD 40
ドライブ構成 20
トラブルシューティング 48

な

ネットワーク
　－ ID の設定 13
　－アダプタ 19
　－運用時の省電力機能 58
　－コンポーネントのインストール . . 12
　－使用時の注意事項 60
　－の設定 12

は

ハードディスクの領域を設定する 37
はじめよう！インターネット
(@nifty) 17
　－のインストール 45
パスワード 51, 52
光磁気ディスク 51
　－ドライブをスーパーフロッピー
　　形式で使用する 51
光磁気ディスク・
ユーティリティ 16, 17, 51
　－のインストール 45
ファイルシステム 20
富士通 3 モードフロッピーディスク
ドライバ 16
プレインストール
　－仕様 16
　－ソフト 16
フロッピーディスク
　－コントローラ 19
　－ドライブ 19
ポート（COM と LPT） 19

ま

マウスとそのほかのポインティング
デバイス 19
マウスポインタのデザインを変える . . . 52
マルチモニタ機能 28

や

ユーザー登録 14

ら

リカバリ 36, 38
リカバリ CD-ROM 36
リカバリ CD-ROM 起動ディスク 36
　－の機種用設定 15
　－のコピー 14
連絡先 54

FMV-6866TX5

FMV-6800SL5/6733SL5/6667SL5/6600SL5c/6566SL5c

FMV-6667CL5/6600CL5c/6566CL5c

FMV-6667CX5/6566CX5c

FMV-5533ML5

Windows® 2000 **モデル**

ソフトウェアガイド

B5FH-0441-01-00

発 行 日　2000 **年** 5 **月**

発行責任　富士通株式会社

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。